



環境社会報告書2016

 トヨタ自動車東日本株式会社

会社概要



発足 2012年7月
本社所在地 宮城県黒川郡大衡村中央平1番地
資本金 68.5億円
従業員数 約7,500名(2016年4月1日現在)
事業内容 トヨタ車の企画・研究開発・生産

事業所



本社・宮城大衡工場
〒981-3609
宮城県黒川郡大衡村中央平1番地
TEL(022)765-6000(大代表)



宮城大和工場
〒981-3408
宮城県黒川郡大和町松坂平5-1-1
TEL(022)345-6711(大代表)



岩手工場
〒029-4503
岩手県胆沢郡金ヶ崎町西根森山1
TEL(0197)41-1120(大代表)



東富士総合センター
〒410-1198
静岡県裾野市御宿1501
TEL(055)996-2000(大代表)



東富士工場
〒410-1195
静岡県裾野市御宿1200
TEL(055)997-1111(大代表)



須山工場
〒410-1231
静岡県裾野市須山2810-1
TEL(055)965-1700

《海外拠点》

KANJIKO DO BRASIL
INDUSTRIA AUTOMOTIVA LTDA.
(ブラジル)



ソロカバ工場



サルト工場

ACSE
Auto CS Engineering Co.,Ltd.
(タイ)



生産車



シエンタ



カローラアクシオ
カローラアクシオハイブリッド



カローラフィールダー
カローラフィールダーハイブリッド



アクア



ポルテ



スパイド



アイシス



センチュリー



クラウンセダン



クラウンコンフォート



コンフォート

主な自動車部品



エンジン



トルクコンバーター



アクスル



電子制御
ブレーキ・システム

INDEX

会社プロフィール

会社概要・事業所・生産車・主な自動車部品 2

トップメッセージ

東北を基盤に世界一の魅力ある
コンパクトカーをお届けします …… 4

会社方針

目指す姿と会社方針 …… 5

トピックス

東北への思い …… 8

環境報告

環境への取組みの考え方	……	10
第5次環境取組みプラン	……	11
2015年度活動実績	……	12
第6次環境取組みプラン	……	13
開発・設計	……	14
生産	……	16
環境保全活動	……	19
地域社会とのコミュニケーション活動		23
子会社の取組み	……	24

社会性報告

お客様との関わり	……	25
社会との関わり	……	27
従業員との関わり	……	32

本報告書は2015年度（2015年4月～2016年3月）における当社単独ベースの取組みを主体にまとめ、一部においては2016年度を含みます。

また、本報告書では活動のポイントを紹介しておりますので、更に詳しく知りたい方は、本文中の[詳しくはこちら](#)をクリックいただき関連情報をご覧ください。



表紙の写真

・奥入瀬渓流：青森県十和田市



取締役社長

白根 武史

東北を基盤に 世界一の魅力ある コンパクトカーをお届けします

はじめに

トヨタ自動車東日本は、関東自動車工業・セントラル自動車・トヨタ自動車東北の3社が統合し2012年7月にコンパクト車の専門集団として誕生いたしました。私たちは、目指す姿である『東北を基盤に 世界一の競争力を持つ 魅力あるコンパクト車をつくる』の実現に向けて、グローバルな視点で「魅力あるコンパクト車の企画提案力を強化」するとともに、東北の地に根付き地域の皆様と連携・切磋琢磨した「ものづくりの改革を通じて競争力を強化」してまいりました。一方、本年4月18日より施行されたトヨタ自動車(株)のカンパニー制に伴い当社は、Toyota Compact Car Companyの母体となりました。これにより活動のフィールドを海外に広げるとともに、目指す姿の実現に向けた取組みを一層加速させて、いつの時代も一歩先を行くクルマづくり&ものづくりで世界をリードしていきたいと考えております。

人と地球環境に優しいクルマづくり&ものづくり

昨年12月、フランスで開催されたCOP21（国連気候変動枠組条約第21回締約国会議）にて、2020年以降の地球温暖化対策の法的枠組み「パリ協定」を採択し、地球温暖化防止に向けた取組みが前進しました。

当社は自動車産業に関わる企業として、地域社会から信頼されるための法令遵守の徹底と地球温暖化防止のための、温室効果ガスの大幅低減をはじめとする環境問題への取組みを経営の最重要課題の一つとして位置付けております。この課題解決に向けて、2015年度を最終年度とした「第5次環境取組みプラン」を策定し、「低炭素社会」「循環型社会」「環境保全と自然共生社会」の構築に向けて全社を挙げて取組み、全ての項目で目標を達成することができました。

具体的な取組みとしては、世界トップレベルの燃費性能を持つ「アクア」をはじめ、「シエンタ」等の製品開発を通じた先進的な環境性能を持つコンパクト車シリーズのクルマづくりと、ものづくりではCO₂低減を最重点項目に掲げ、徹底した省エネ活動と地域の特徴を活かした自然エネルギーの利用等、人と地球環境に優しい取組みを推進しております。

また、トヨタ自動車(株)が昨年10月に発表した「トヨタ環境チャレンジ2050」の6つのチャレンジの実現に向け、トヨタグループの一員として貢献すべく、2016年度～2020年度の5カ年を対象とした「第6次環境取組みプラン」を策定し展開するとともに、20年先、30年先を見据えた新たな取組みに着手してまいります。

この報告書により、当社の取組み姿勢や活動内容をご理解いただくとともに、忌憚のないご意見をお待ちしております。

今後もお客様、社会・環境との調和を図りながら、一層の努力を続けてまいります。

皆様のご支援、ご愛顧を賜りますよう心よりお願い申し上げます。

2016年6月

目指す姿と会社方針

私たちの目指す姿 東北を基盤に 世界一の競争力を持つ 魅力あるコンパクト車をつくる

2012年の新会社誕生の際に掲げた、この目指す姿には

- 東北の地に根付き、地域と一体となったものづくりを続け、地域の一員として愛される企業市民となっていきたい。
- 世界中の車両メーカーが凌ぎを削るコンパクト車だからこそ、日本のものづくりの強みである高技能と革新技术力を活かし、日本から競争力のあるクルマを産み出し続けていきたい。
- 日本で鍛えられた力を世界のコンパクト車づくりに活かし、トヨタのグローバルなコンパクト車づくりのリーダーを目指して努力していきたい。

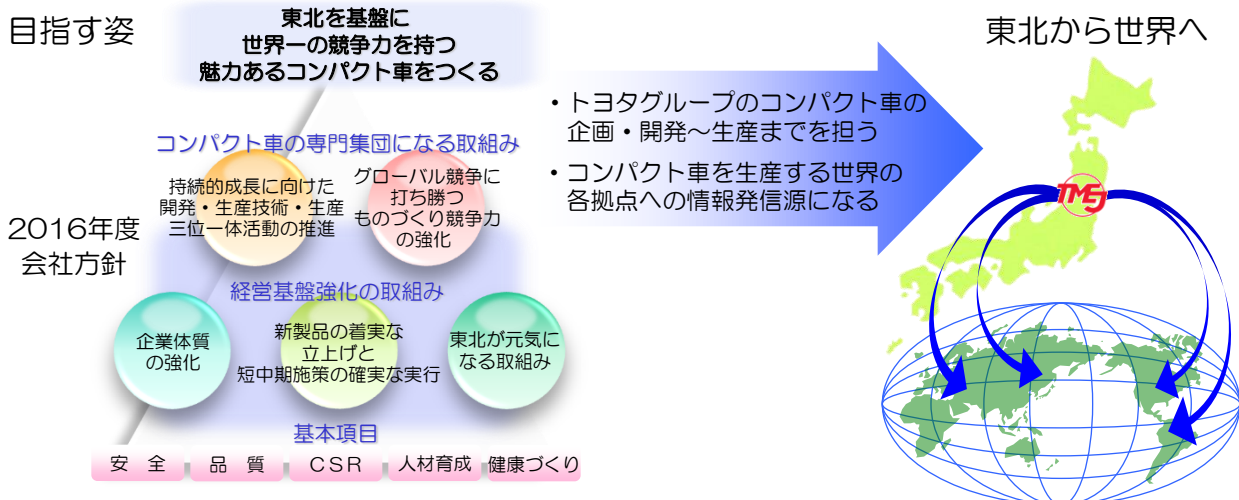
という私たちの思いが込められています。

この目指す姿の実現に向けて、2016年度の会社方針では、「コンパクト車の専門集団」として実力を高めていくために、以下の2点を重点推進事項とし、TNGA^{※1}に基づく商品開発と競争力のあるものづくりを推進してまいります。

- ◆ 持続的成長に向けた開発・生産技術・生産 三位一体活動の推進
- ◆ グローバル競争に打ち勝つ、ものづくり競争力の強化

※1 Toyota New Global Architecture
トヨタ自動車㈱が提唱する商品力の飛躍的な向上と
原価低減を同時に達成する新しいクルマづくりの方針

また、トヨタ自動車㈱の本年4月18日付組織改正に伴って、Toyota Compact Car Companyの一員となったことで、活動のフィールドが広がることとなり、東北のものづくりをグローバルに展開できる環境が一層整いました。これまで以上に、もっといいクルマを、もっと早く、世界中のお客様へお届けしてまいります。そして、トヨタ国内第3の拠点である「東北」を基盤とする会社として、社員一人ひとりが責任感ある行動により、地域からも信頼され、共に成長していくことで「東北が元気」になれるよう、お客様・社会・環境との調和を図ってまいります。



目指す姿と会社方針

コンパクト車の専門集団になる

グローバル競争に打ち勝つ、ものづくり競争力の強化

当社が任されたコンパクト車は世界中の各メーカーが凌ぎを削る最激戦の市場であり、生き残りのためには、日本の「ものづくり」の強みである『現場の高い技能』を最大限活かし、現場発信の一人ひとりの知恵と工夫を活かしたものづくりで競争力を持つことが必要と考えております。その一つの取組みが「からくり*1」であり、シンプル・手づくり・低コストで省エネルギーにもつながるとの考え方のもと、改善を推進しております。本報告書では当社がものづくりの現場に導入している「からくり技術」について、取組みの一端を紹介します。

※1「からくり」とは

電気等の動力を使うのを極力避け、機械仕掛けを活用し、様々な動きを具現化します。そうした道具を自分達で考えて手作りし、使って更に工夫を重ねていくもの。

「からくり技術」で切磋琢磨

現場で生まれた知恵と工夫の結晶である「からくり技術」を生産技術に落とし込み、自工場にとどめることなく、他工場に速やかに横展・共有し、切磋琢磨しながら改善を推進しております。



「からくり技術」向上の取組み

2007年に岩手工場スタートしたからくり改善。この活動を当社の文化として定着・醸成させていくに当たり、2014年「からくりマン認定制度」が4工場で統一されました。また、各工場から優秀な作品を集めて「からくり改善コンテスト」を開催しております。



「からくり道場」

からくりの機構や生産現場での応用事例を学んでいます。

「からくり改善コンテスト」

現場で使われているからくり装置の審査を行い、優秀者を表彰しています。

からくりマン認定制度

からくりを製作し、完成登録した人は、からくりマン入門者として認定されます。各工場コンテストで入賞するとポイント加点され、その累計点が認定基準に達すると、上位の級へ昇級することができます。またその級に相応しい能力が認められれば昇級できる「推薦制度」も並行して運用しています。

	匠 (マイスター)	上級	中級	初級	入門
認定 バッジ					
認定 基準	推薦のみ	推薦 or 14ポイント以上	推薦 or 7ポイント以上	推薦 or 3ポイント以上	からくり完成 登録1件以上
表彰者	社長	社長	工場長	工場長	部長 (バッジ付のみ)

目指す姿と会社方針

からくり改善事例

シエンタバックドア自動開け機 ～袋の膨張力を利用してドア開け作業の負担を軽減～

【改善前】生産ラインを流れるシエンタのバックドアを作業者が開けていた

バックドアを手で開けるには、3秒/台当りが必要な上、バックドア周辺に取り付ける部品や工具を持ちながらの作業は、クルマに傷をつけてしまう恐れがある

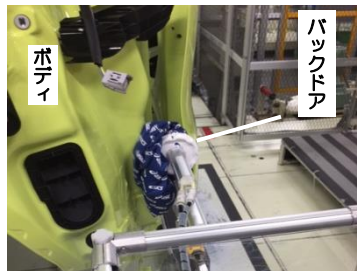
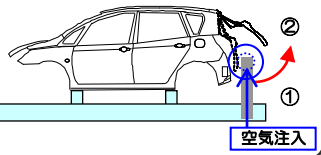


バックドア開け作業

【改善後】バックドアを自動機で開ける

〈からくりを使った仕様〉

- ①ボディとドアの間に袋を差し込み、空気を入れて膨らませる
- ②バックドアが約20cm持ち上がる、車両に取り付けたダンパーの力で全開



ボディとバックドアの間に袋（氷のう）を挿入



袋（氷のう）に空気を入れるとバックドアがダンパーの力で全開

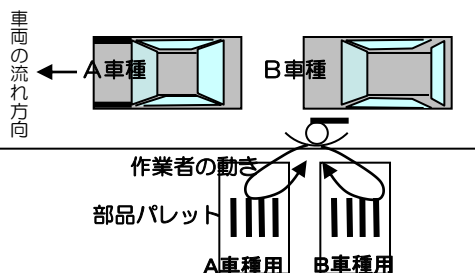
【効果】バックドアを開ける作業の廃止・・・▲3秒/台当り、バックドア周辺の傷つき防止

フロントフェンダー供給装置 ～走行動力のみで歩行数低減と部品取出し作業を軽減～

【改善前】フロントフェンダー部品をライン横まで作業者が取りに行く際、複数種類の部品があることから、離れたパレットまで取りに行く必要がある



フロントフェンダー

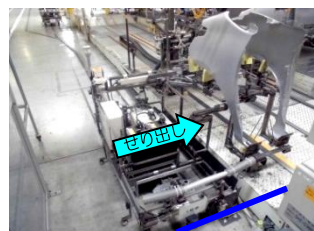


フロントフェンダー取出し作業

【改善後】生産する車種にあわせて、順番に部品をライン側に搬送機が運搬。ライン側で部品棚がせり出す様にして、作業者が部品を取り出しやすい様に改善



フロントフェンダー搬送



取付工程にて搬送停止し、部品せり出し

〔モーターやシリンダーを使用せずに搬送機の推力で部品棚せり出し〕

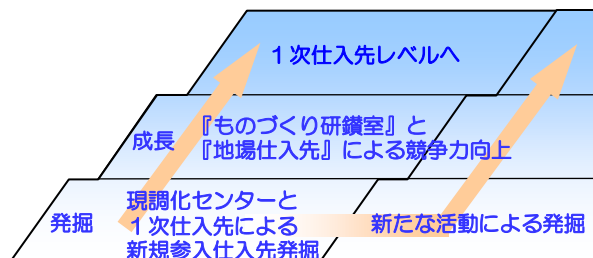
【効果】フロントフェンダー取出し作業時間の低減・・・▲10秒/台当り

ものづくり基盤の強化に向けて

当社は中部・九州に次ぐトヨタの国内生産第3の拠点である東北を基盤とし、グローバル市場で競争の激しいコンパクト車を担っております。私たちは強みである「現場発信のものづくり」の取組みを更に極めると共に、ものづくりに適した東北の「風土・文化・人の気質」を活かしながら東北に根を張り、ものづくり基盤を強化していきたいと考えております。そして、東北のものづくりが日本を牽引し、東北の地から世界へ発信し続けられるように、地域の皆様と一緒に取組んでまいります。

東北をものづくりの拠点に

東北の産業基盤強化のため地場企業の皆様と連携し、相互研鑽する活動を推進しております。この活動を通じて、人が育ち、ものづくりの輪が広がり、やがてはものづくり競争力の向上に結びつくものと考えております。



◇ 2012年 東北現調化センター 設立

1次仕入先の皆様と連携した分解展示会や部品説明会などを開催し、自動車産業へのご理解をお願いしております。

◇ 2015年 ものづくり研鑽室 設立

東北におけるものづくり競争力の底上げを目的に、地場仕入先の皆様と一緒に品質や生産性の向上に取り組んでおります。

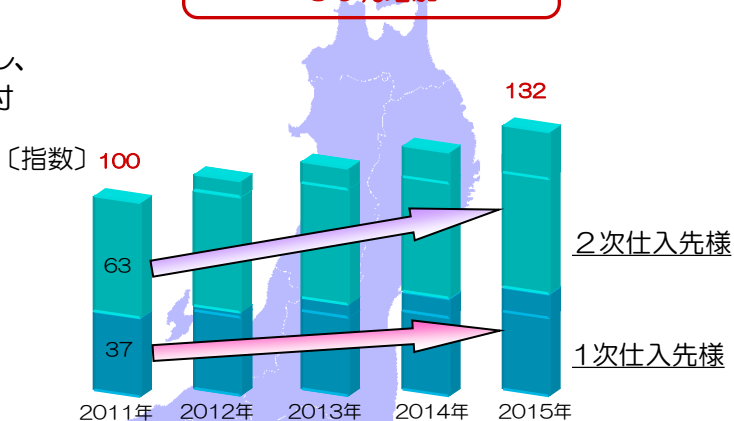


地場仕入先の皆様と相互研鑽活動

これまでの地道な取組みは、東北での仕入先の皆様の生産拠点増加につながっております。

引き続き東北の特色ある技術を発掘し、世界をリードするものづくりに結び付けてまいります。

東北での仕入先様の拠点数
30%増加



東北への思い

東北を支える人づくり

「ものづくりは人づくり」の理念に基づき、「人づくりを通じて、東北におけるものづくり基盤を強化したい」という思いで、2013年4月にトヨタ東日本学園を設立しました。



トヨタ東日本学園の外観

◇ トヨタのものづくりの基礎・基本を 現地・現物で学ぶ

トヨタ東日本学園では当社の社員だけでなく、地場企業の皆様も対象に、技能実習に重点を置き、ものづくりの基礎から教育しております。また、東北地方の伝統工芸から、からくり技術やものづくりの心構えを学んでおります。

[詳しくはこちら](#)



教育の様子

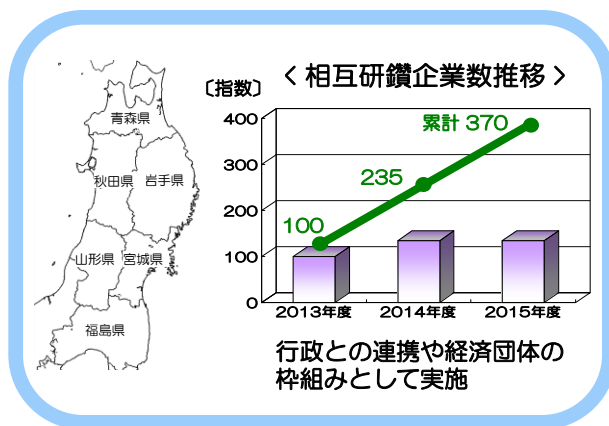


伝統工芸に学ぶ

〔千葉孝機業場の100年前のY式自動織機〕

異業種地場企業との相互研鑽

当社は東北の企業として、地域に広く深く根を張るために、自動車関連企業のみならず、食品や水産加工などの地場企業の皆様とも、ものづくりを通じた相互研鑽に取り組み、東北に改善の輪を広げて製造業の底上げを図っております。



相互研鑽

お互いに人材育成



トヨタ自動車東日本

- ・外で学び、中で活かす
- ・人材育成

【相互研鑽事例】

A社（食料品製造業）

- ◇ 生産性向上のため、手動によるコンベアー方式の作業性検討



B社（農業）

- ◇ パネルの運搬作業軽減に向けた運搬台車の検討



環境への取組みの考え方

当社はトヨタ自動車（株）の「トヨタ地球環境憲章」を受け、「環境に関する取組みの基本方針」を2012年7月に制定し、下記の4本柱で活動しております。また、取組み体制は全社と各事業所の環境会議を有機的に結合させ、さらに連結子会社とも連携し、環境保全活動を推進しております。

環境に関する取組みの基本方針

1. 豊かな21世紀社会への貢献

豊かな21世紀社会へ貢献するため環境との調和のある成長を目指し、事業活動の全ての領域を通じてゼロエミッションに挑戦します。

2. 環境技術の追求

環境技術のあらゆる可能性を追求し環境と経済の両立を実現する新技術の開発と定着に取り組めます。



環境
ロゴマーク

3. 自主的な取組み

未然防止の徹底と法基準の遵守に努めることはもとより、地球規模及び各国・各地域の環境課題を踏まえた自主的な改善計画を策定し、継続的な取組みを推進していきます。

4. 社会との連携・協力

関係会社や関連産業との協力はもとより政府、自治体を始め、環境保全に関わる社会の幅広い層との連携・協力関係を構築していきます。

環境取組み体制

環境会議

当社の重要環境課題について対応の方向付けを行い、環境保全活動の推進を図ります。〔議長：環境担当役員 委員：関係役員・部長〕

宮城大衡工場 環境会議

宮城大和工場 環境会議

岩手工場 環境会議

東富士工場 環境会議

東富士総合センター地区
環境会議

本社環境連絡会

事業所毎の環境保全活動の
検討と推進を図ります。

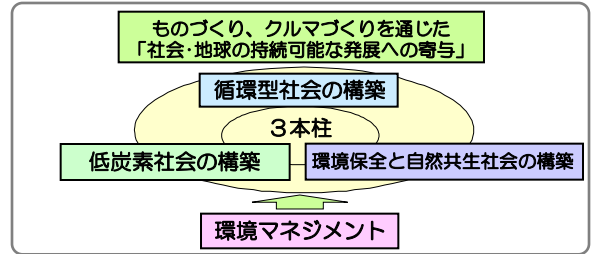
オールTMEJ 環境会議

当社の連結子会社と環境関係情報の共有化を図り、連携して環境保全活動を推進します。

第5次環境取組みプラン

当社は2015年度までの中期環境取組み計画—第5次環境取組みプラン※1に基づき、社会・地球の持続可能な発展に寄与するため、「低炭素社会」「循環型社会」「環境保全と自然共生社会」の構築を3本柱に活動を推進しました。

※1 2011年度～2015年度の5か年で実施すべき内容を明確にしたプラン



取組み項目		具体的な実施事項・目標							
低炭素社会の構築	開発・設計	<ul style="list-style-type: none"> 自動車の燃費向上に寄与する軽量化、電力と熱効率の優れた車両構造の開発と製品化 	<ul style="list-style-type: none"> □高張力鋼板、材料置換による軽量化 □消費電力低減につながる車両構造等の開発 □走行抵抗低減や熱効率の優れたボディ構造の開発 						
	生産・物流	<ul style="list-style-type: none"> 生産活動における省エネ活動の徹底と温室効果ガス排出量の低減 物流活動における輸送効率の追求とCO2排出量の低減 	<ul style="list-style-type: none"> □低CO2生産技術の開発・導入と日常改善によるCO2低減活動の推進（生産性向上の追求、オフィス等も含めた活動を展開） □再生可能エネルギーの活用 <p style="text-align: right;">＜CO2低減目標＞</p> <table border="1" style="width: 100%;"> <thead> <tr> <th>項目</th> <th>基準年</th> <th>目標（2015年度）</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>台当たり排出量※</td> <td>2001年度</td> <td>33%減</td> </tr> </tbody> </table> <p style="text-align: right; font-size: small;">※：ボディ・塗装・組立工程を対象とする</p>	項目	基準年	目標（2015年度）	台当たり排出量※	2001年度	33%減
	項目	基準年	目標（2015年度）						
台当たり排出量※	2001年度	33%減							
社会との連携	<ul style="list-style-type: none"> 地球温暖化対策への積極的な協力 	□経団連・自動車車体工業会等、業界の低炭素社会構築への取組み推進							
循環型社会の構築	開発・設計	<ul style="list-style-type: none"> 資源の有効利用に配慮したリサイクル設計の一層の推進 	<ul style="list-style-type: none"> □解体、リサイクルが容易な車両の開発推進と展開 □リサイクル材の利用促進 						
	生産・物流	<ul style="list-style-type: none"> 生産活動における廃棄物等の低減活動推進 	<ul style="list-style-type: none"> □発生源対策による排出物低減と資源の有効利用促進 □廃棄物の発生量低減活動推進（塗装工程の廃棄塗料低減等） □物流：梱包、包装仕様のシンプル・スリム化容器的リターナブル化推進 □水：継続的な水使用量の低減 <p style="text-align: right;">＜廃棄物低減目標＞</p> <table border="1" style="width: 100%;"> <thead> <tr> <th>項目</th> <th>基準年</th> <th>目標（2015年度）</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>台当たり発生量</td> <td>2001年度</td> <td>31%減</td> </tr> </tbody> </table>	項目	基準年	目標（2015年度）	台当たり発生量	2001年度	31%減
	項目	基準年	目標（2015年度）						
台当たり発生量	2001年度	31%減							
社会との連携	<ul style="list-style-type: none"> 循環型社会の構築への貢献 	□環境改善・資源循環社会構築に向けた技術開発の推進							
環境保全と自然共生社会の構築	開発・設計	<ul style="list-style-type: none"> 化学物質管理の充実 	<ul style="list-style-type: none"> □グローバルな化学物質管理の推進 <ul style="list-style-type: none"> -規制重金属全廃（鉛・水銀等） -製品に含まれる多様な化学物質管理の充実 -環境負荷のより少ない物質への代替技術の開発と代替推進 						
	生産・物流	<ul style="list-style-type: none"> 生産活動における環境負荷物質の低減 	<ul style="list-style-type: none"> □塗装工程における塗料、シンナーの削減等VOC※低減技術の開発と導入 ※VOC（Volatile Organic Compounds）揮発性有機化合物 <p style="text-align: right;">＜VOC低減目標＞</p> <table border="1" style="width: 100%;"> <thead> <tr> <th>項目</th> <th>基準年</th> <th>目標（2015年度）</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>ボディ塗装面積当たりの排出量</td> <td>2000年度</td> <td>74%減</td> </tr> </tbody> </table>	項目	基準年	目標（2015年度）	ボディ塗装面積当たりの排出量	2000年度	74%減
	項目	基準年	目標（2015年度）						
ボディ塗装面積当たりの排出量	2000年度	74%減							
社会との連携	<ul style="list-style-type: none"> 自然共生社会構築に資する社会貢献活動の推進 	<ul style="list-style-type: none"> □構内森づくりと森づくりを通じた環境教育の充実 □地域の植樹・自然保護活動への積極的な参加 							
環境マネジメント	環境マネジメントの強化推進	<ul style="list-style-type: none"> □環境法令の遵守と環境リスクに対する未然防止活動の強化 □環境管理（EMS※）活動の充実 <p style="text-align: right; font-size: small;">※EMS：Environmental Management System: 環境マネジメントシステム</p>							
	ビジネスパートナーと連携した環境活動の推進	<ul style="list-style-type: none"> □部品、原材料、資材などに含まれる化学物質管理の充実 □仕入先への環境法令遵守の要請 							
	サステナブルプラント活動の推進	<ul style="list-style-type: none"> □自然を活用し、自然と調和する工場づくりとノウハウの展開 □低CO2生産技術開発、日常改善、再生可能エネルギー、工場の森づくりの推進 							
	環境教育の充実と推進	<ul style="list-style-type: none"> □従業員の環境意識向上に向けた環境教育の体系化と実践 □連結事業体と連携した環境教育の推進 □環境月間活動および省エネ月間活動の展開 							
	環境情報の積極的な開示とコミュニケーション活動の充実	<ul style="list-style-type: none"> □環境情報の積極的な開示とコミュニケーション活動の充実 							

2015年度活動実績

「第5次環境取組みプラン」の最終年度に当たる2015年度は、全社が一丸となった取組みの推進により、全ての項目で目標を達成することができました。

目標（'15年度）		活動実績		関連頁	
低炭素社会の構築	開発・設計	開発車種毎に質量目標設定	質量目標を達成	● 開発車種毎に質量目標達成活動を推進	P14
	生産	CO ₂ 排出量 〔台当たり排出量〕 140kg-CO ₂ /台 以下 〔総量〕 139千t-CO ₂ 以下	139kg-CO ₂ /台 139千t-CO ₂	● CO ₂ 低減アイテムの横展活動と日常改善の推進 ・設備の運転条件最適化 ・乾燥炉の放熱抑制 ・非稼働時の待機電力の低減 等	P16
	物流	CO ₂ 排出量〔総量〕 9.6千t-CO ₂ 以下	9.5千t-CO ₂	● 積載効率・輸送効率向上によるCO ₂ 低減	—
循環型社会の構築	開発・設計	開発車種毎にリサイクル率、リサイクル解体時間の目標を設定	リサイクルの目標を達成	● 開発車種毎にリサイクル設計の推進（解体容易な構造の開発およびリサイクルしやすい素材の採用）	P15
	生産	廃棄物〔台当たり発生量〕 7.0kg/台 以下	6.9kg/台	● 廃棄物の発生源対策、低減アイテムの横展とリサイクル推進 ・脱水污泥や未着塗料の含水率低減 ・切削油の再使用による廃液の低減等	P17
	物流	梱包資材使用量〔総量〕 860t 以下	810t	● 梱包材の板厚や包装方法の適正化等を推進	—
	生産	水使用量〔台当たり使用量〕 2.3m ³ /台 以下	1.66m ³ /台	● 工業用水の再利用や節水活動等を推進	P17
環境保全と自然共生社会の構築	開発・設計	開発車種毎に環境負荷物質の低減目標を設定	環境負荷物質の目標を達成	● 開発車種毎に低減目標を設定し活動を推進 ● 欧州REACH規則※に対応した着実な取組み ※REACH (Registration, Evaluation, Authorization and Restriction of Chemicals) 人の健康や環境の保護のために化学物質とその使用を管理する欧州議会及び欧州理事会規則	P15
	生産	VOC 〔ボティ塗装面積当たりの排出量〕 22.2g/m ² 以下	21.2g/m ²	● 塗装の塗着効率向上 ● 洗浄シンナーの使用量低減・回収率向上 および新規塗料への切り替え等を推進	P18
	・社会貢献活動の推進		● ウェルキャブ（車いす仕様車）の寄贈 ● 東日本大震災 被災地の復興支援ボランティア活動を推進 ● 各事業所周辺での交通安全啓蒙と清掃活動を実施 ● 環境諸団体の環境保護活動への協力		P22 P27~P31
環境マネジメント	・環境マネジメントの強化、推進		環境違反・苦情：ゼロ達成	● 違反・苦情の発生防止活動として、他社事例の横展および環境施設の点検と未然防止活動の推進	P19
	・ビジネスパートナーと連携した環境活動の推進		● 連結子会社と連携した環境違反・苦情防止活動とCO ₂ 等の環境負荷低減活動の推進 ● グリーン調達ガイドラインに基づく活動と地域と一体となったものづくりの推進		P8~P9 P24
	・サステナブルプラント活動の推進		● サステナブルプラント活動のコンセプトに基づき、各地域の特徴を活かした「自然を活用し自然と調和する工場づくり」を推進		P20~P22
	・環境教育活動の充実と推進		● 全従業員、新入社員、新任環境管理推進者への教育を計画通り実施		—
	・環境情報の積極的な開示とコミュニケーション活動の充実		● 環境社会報告書の計画的な発行・情報開示と各事業所毎の環境コミュニケーション報告会を開催		P23

第6次環境取組みプラン

トヨタ環境チャレンジ2050
「ゼロの世界にとどまらない“プラスの世界”を目指して」
～Challenge to ZERO & Beyond～

当社は2016年度から2020年度に実施すべき内容を明確にした「第6次環境取組みプラン」を策定しました。本プランでは「低炭素社会」「循環型社会」「環境保全と自然共生社会」の構築を3本柱に展開するとともに「トヨタ環境チャレンジ2050」の6つのチャレンジの実現に向けて、新たな取組みに着手してまいります。

ゼロへのチャレンジ	①新車CO2ゼロチャレンジ ▲90% 2050年	次世代車の開発・普及
	②ライフサイクルCO2ゼロチャレンジ	環境配慮設計 ～素材から廃棄まで～
	③工場CO2ゼロチャレンジ 2050年 ゼロを目指す	徹底した低CO2革新技術 再エネ導入・水素利用
プラスを目指すチャレンジ	④水環境インパクト最小化チャレンジ	徹底的に使用を少なく 徹底的にきれいに
	⑤循環型社会・システム構築チャレンジ	資源循環システム グローバル展開
	⑥人と自然が共生する未来づくりへのチャレンジ	オールトヨタ統一活動 活動を社会・世界とつなぐ

取組み項目		具体的な実施事項・目標						
低炭素社会の構築	開発・設計	<ul style="list-style-type: none"> 自動車の燃費向上に寄与する技術の開発と製品化 <input type="checkbox"/> 高張力鋼板の採用や材料置換による軽量化の推進 <input type="checkbox"/> 消費電力低減につながる車両構造等の開発 <input type="checkbox"/> 走行抵抗低減や熱効率の優れたボディ構造の開発						
	生産・物流	<ul style="list-style-type: none"> 生産活動におけるCO2排出量の低減 物流活動における輸送効率の追求とCO2排出量の低減 <input type="checkbox"/> 低CO2生産技術の開発・導入と日常改善活動によるCO2低減活動の推進（生産性向上の追求、オフィス等も含めた活動の展開） <input type="checkbox"/> 再生可能エネルギーの活用 <生産活動のCO2低減目標> <table border="1"> <thead> <tr> <th>項目</th> <th>基準年</th> <th>目標（2020年度）</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>台当たり排出量※</td> <td>2001年度</td> <td>38%減</td> </tr> </tbody> </table> ※：ボディ・塗装・組立工程を対象とする	項目	基準年	目標（2020年度）	台当たり排出量※	2001年度	38%減
項目	基準年	目標（2020年度）						
台当たり排出量※	2001年度	38%減						
循環型社会の構築	開発・設計	<ul style="list-style-type: none"> 資源の有効利用に配慮したリサイクル設計の一層の推進 <input type="checkbox"/> リサイクル材の活用促進と解体やリサイクルが容易な車両の開発推進と展開（易解体構造の織り込み推進）						
	生産・物流	<ul style="list-style-type: none"> 生産活動における排出物の低減と資源の有効利用 物流活動における梱包包装資材の低減と資源の有効利用 生産活動における水使用量の低減 <input type="checkbox"/> 発生源対策による排出物低減と資源の有効利用促進 <input type="checkbox"/> 廃棄物の発生量低減活動推進（塗装工程の廃棄塗料低減等） <input type="checkbox"/> 物流：梱包、包装仕様のシンプル、スリム化容器のリターナブル化等の推進 <input type="checkbox"/> 日常改善など、各種取組みによる継続的な水使用量低減活動の推進 <廃棄物低減目標> <table border="1"> <thead> <tr> <th>項目</th> <th>基準年</th> <th>目標（2020年度）</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>台当たり発生量</td> <td>2001年度</td> <td>35%減</td> </tr> </tbody> </table>	項目	基準年	目標（2020年度）	台当たり発生量	2001年度	35%減
	項目	基準年	目標（2020年度）					
台当たり発生量	2001年度	35%減						
生産	<ul style="list-style-type: none"> 生産活動におけるVOCの低減 <input type="checkbox"/> 塗装工程における塗料、シンナーの低減等 <input type="checkbox"/> VOC※低減技術の開発と展開 ※VOC（Volatile Organic Compounds）揮発性有機化合物 <VOC低減目標> <table border="1"> <thead> <tr> <th>項目</th> <th>基準年</th> <th>目標（2020年度）</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>ボディ塗装面積当たりの排出量</td> <td>2000年度</td> <td>79%減</td> </tr> </tbody> </table>	項目	基準年	目標（2020年度）	ボディ塗装面積当たりの排出量	2000年度	79%減	
項目	基準年	目標（2020年度）						
ボディ塗装面積当たりの排出量	2000年度	79%減						
環境保全と自然共生社会	社会との連携	<ul style="list-style-type: none"> 各事業所・各地域に根差した環境保全活動の推進 <input type="checkbox"/> サステナブルプラントを中心とした自然共生活動の推進 <input type="checkbox"/> 地域社会と連携した環境保全活動の推進（地域の自然保護活動への積極的な参加等）						
環境マネジメント	連結環境マネジメントの強化推進	<input type="checkbox"/> 各国、各地域での環境パフォーマンス向上に向けた活動の推進 <input type="checkbox"/> 各国、各地域の環境法令遵守と環境リスクの未然防止活動の徹底強化 <input type="checkbox"/> グローバルな製品化学物質管理の充実						
	ビジネスパートナーと連携した環境活動の推進	<input type="checkbox"/> 仕入先への環境法令遵守の要請 <input type="checkbox"/> 当社へ納入される部品、原材料、幅資材等に含まれる環境負荷物質の管理充実および自主的な環境パフォーマンス向上活動の要請						
	環境教育の充実と推進	<input type="checkbox"/> 従業員の環境意識向上に向けた環境教育の体系化と実践 <input type="checkbox"/> 連結事業体と連携した環境教育の推進 <input type="checkbox"/> 環境月間活動および省エネ月間活動の展開						
	環境情報の積極的な開示とコミュニケーションの充実	<input type="checkbox"/> 環境情報の内容充実と積極的な開示 <input type="checkbox"/> 地域社会とのコミュニケーションの充実						

開発・設計

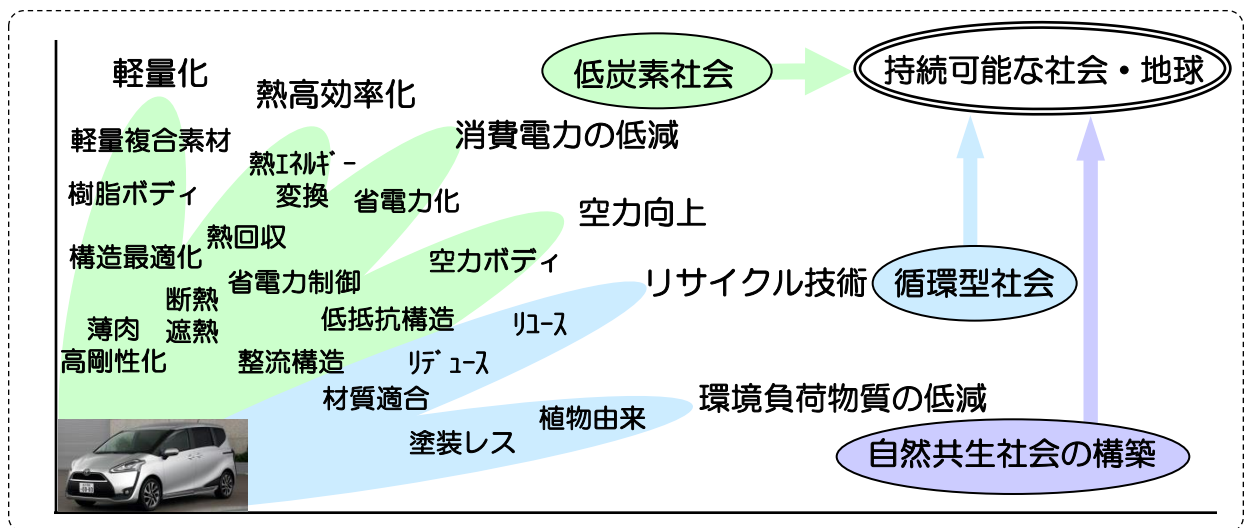
環境に配慮した製品・技術開発

当社では常に環境との調和と低炭素社会、循環型社会、自然共生社会の実現を目指して、製品開発や技術開発に取り組んでおります。当社が開発し生産する製品の環境負荷が将来にわたり少なくなるように、LCA^{※1}（ライフサイクルアセスメント）の視点に立ち、開発・生産から使用・廃棄に至るすべての段階で環境に及ぼす影響を検討し、お客様に提供させていただいております。

※1：クルマの走行段階だけでなく、生産から廃棄までの全ライフサイクルで排出するCO₂やその他の環境負荷の総量を評価し低減する取組み

環境に対する技術の取組み

当社が開発・生産する製品の環境負荷を低減するために、様々な角度から技術開発に取り組んでいます。



軽量化

ボディの軽量化等に積極的に取組み、燃費の向上と排出ガスの低減を推進しています。

軽量・高剛性ボディの開発

【車種】シエンタ

■構造解析ソフトの活用により、ボディ剛性に効果的な部位に高張力鋼板を採用する事で最適な板厚を実現し、軽量化と高剛性を両立しました。

■フロント・リヤドア及びバックドアの開口とリヤホイールハウス周辺のスポット溶接打点を追加する事で剛性を確保し、最適な板厚で軽量化と高剛性を両立しました。

- その他（980Mpa以上）
- 980Mpa
- 540Mpa
- 440Mpa
- BH、HR鋼板

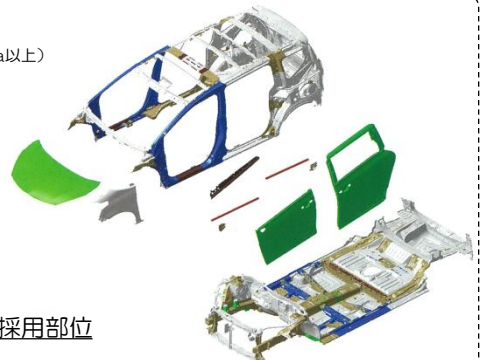


図1 高張力鋼板採用部位

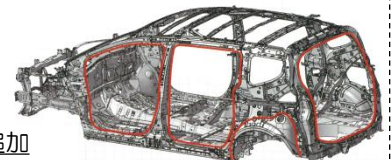


図2 スポット溶接打点追加

開発・設計

環境負荷物質の低減

製品使用後の適正処理やリサイクルの促進にあたり、環境への影響を低減することを目的に開発段階から環境負荷物質の全廃・低減に取り組んでいます。

環境負荷物質の低減

■ 欧州ELV指令^{※1}及びオールトヨタの目標を策定し、積極的に削減に取り組んでいます。

表1 主な環境負荷物質と廃止した事例

重金属4物質	廃止した事例
鉛	電気部品のはんだ
水銀	液晶パネル
六価クロム	腐食防止処理剤
カドミウム	電気部品の基盤

※1：ELV指令：End of Life Vehicles
(使用済み自動車に関する指令)

欧州連合（EU）において発効され、使用済み自動車が環境に与える負荷を低減するため、自動車の部品・材料に鉛、水銀、六価クロム、カドミウムの4物質を非含有にしなければEU加盟国に輸出できない指令

リサイクル性向上

リサイクルしやすい素材・リサイクル材の利用促進や解体しやすい構造の採用など、リサイクル性の向上と廃棄物の低減を図っています。

自動車のリサイクル性向上を目指し、解体容易な構造の開発

【車種】シエンタ

■ リサイクル性に優れた素材TSOP^{※2}を積極的に採用しました。

※2：Toyota Super Olefin Polymer

■ 手作業による解体に加え、3次元CADデータを用いた評価や実車評価にて、解体がより容易に出来る構造に工夫しました。



重機によるフロントバンパーの解体評価

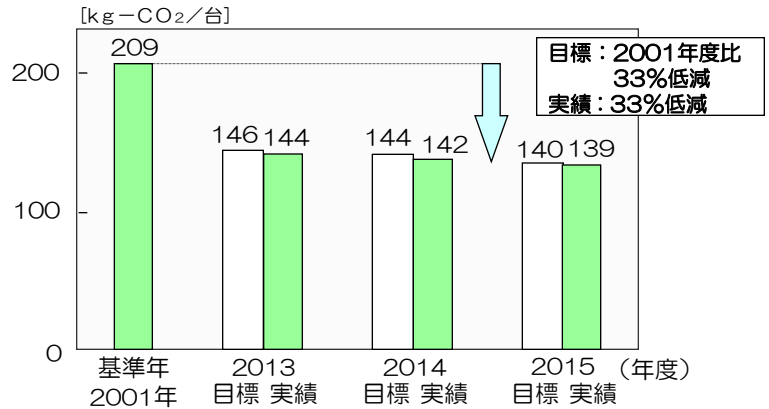
生産

当社は低炭素社会の構築に向け、2015年度を最終年度とした「第5次環境取組みプラン」に引き続き、2016年度からスタートした「第6次環境取組みプラン」においても、省エネルギーと温暖化防止に取り組んでおります。

生産に伴うCO₂排出量の低減

生産活動に伴うCO₂排出量を低減するために、からくり技術等を活用した、ものづくり改革による省エネルギーや設備の運転条件見直し、非稼働時の待機電力低減等の日常での改善活動に取り組み、2015年度目標を達成しました。

生産に伴うCO₂排出量（台当り）



省エネルギーへの取組み

【改善事例】ボディ溶接ロボットの待機電力低減

改善前	改善後
<ul style="list-style-type: none"> 溶接ロボットには起動時間短縮等の狙いから、休日等の生産ライン停止時でも通電しているため、電力を消費していた（待機電力が発生） 溶接ロボットは台数が多く、通電を停止するには、1台毎に制御盤を操作する必要があり、時間がかかっていた 	<ul style="list-style-type: none"> 待機電力を低減する狙いから、複数のロボットへの通電を少ない時間で一括停止する操作盤を開発し、運用
<p>ロボット毎制御盤</p> <p>① 待機電力発生</p> <p>② 待機電力発生</p> <p>③ 待機電力発生</p>	<p>一括制御用操作盤 (ライン停止時はOFF)</p> <p>①</p> <p>②</p> <p>③</p> <p>グループ化したロボットへの通電を同時に停止</p> <p>CO₂低減量：約36 t/年</p>

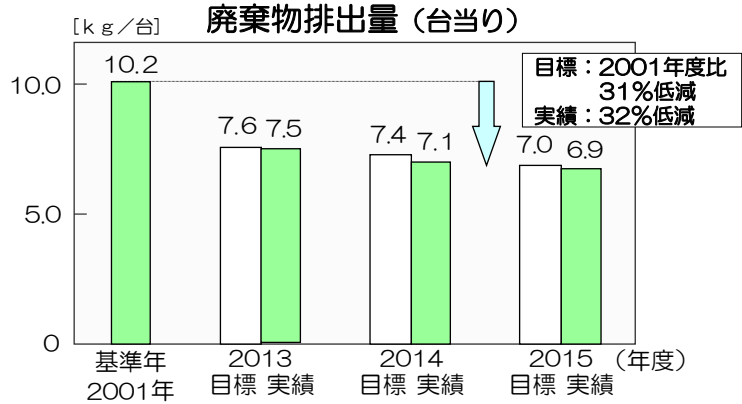
生産

当社は循環型社会の構築に向け、生産段階における廃棄物の減量化やリユース・リサイクルを通じた資源の有効利用による廃棄物の低減と水使用量の低減等に取り組んでおります。

廃棄物低減活動

生産活動に伴う廃棄物を低減するために、塗装工程から排出される汚泥※1の脱水化や、部品の製造過程で発生する廃液の再利用等を推進し、2015年度目標を達成しました。

※1 ボディの塗装過程で発生する塗料が固形化されたもの

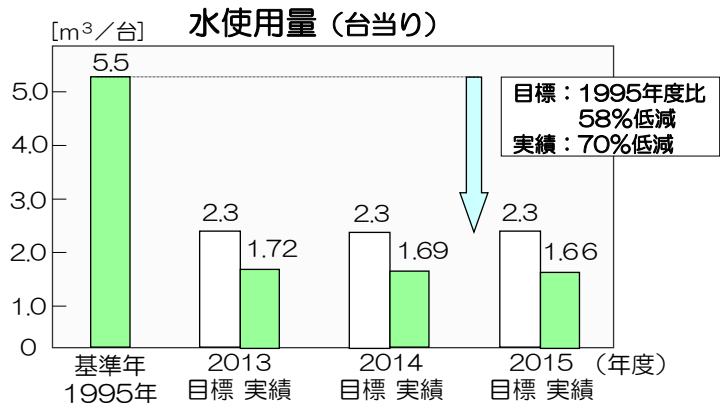


【改善事例】 切削加工機の廃液低減

改善前	改善後
<ul style="list-style-type: none"> 自動車部品の製造過程で発生する廃液には摺動油と切削液が混在していた そのため、従来は産業廃棄物処理業者が廃棄物として引き取り、焼却処分していた 	<ul style="list-style-type: none"> 廃棄物を低減するために、廃液から摺動油を分離・回収し、重油の代替として利用
<p>〔切削加工機概要〕</p> <p>摺動油 摺動部 部品 切削液 切削加工機タンク（廃液）</p> <p>・摺動油（油分） ・切削液（水溶性）が混在 ⇒ 廃棄物として処分</p>	<p>廃液サンプル</p> <p>摺動油 切削液</p> <p>重油の代替として利用</p> <p>廃液低減量：約13t/年</p>

水使用量の低減

水使用量を低減するために、塗装工程で使用する工業用水の再利用や全員参加の節水活動等により、2015年度目標を達成しました。



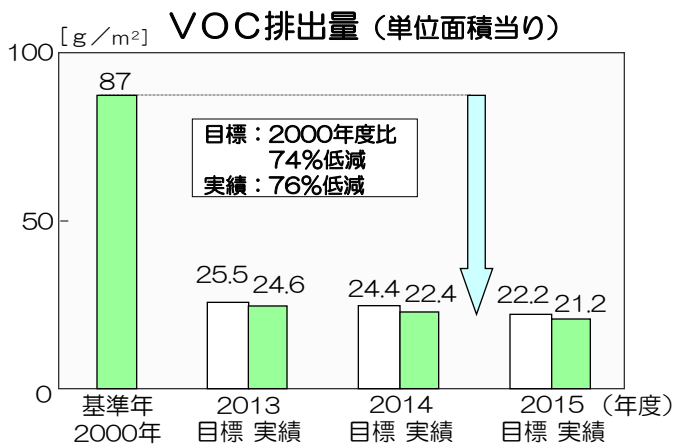
生産

当社は人の健康と環境への悪影響を最小化するために、生産工程で使用する化学物質を環境負荷の少ないものへの転換や使用量・排出量の低減を推進しております。第5次環境取組みプランでは、光化学スモッグの原因物質の一つであると言われているVOC※1対象物質の低減を取り上げ主にボディ塗装および部品塗装（バンパー塗装他）工程を重点に、塗料やシンナー使用量の低減活動を推進しました。この取組みは2016年度からスタートした第6次環境取組みプランでも継続しております。

VOCの低減

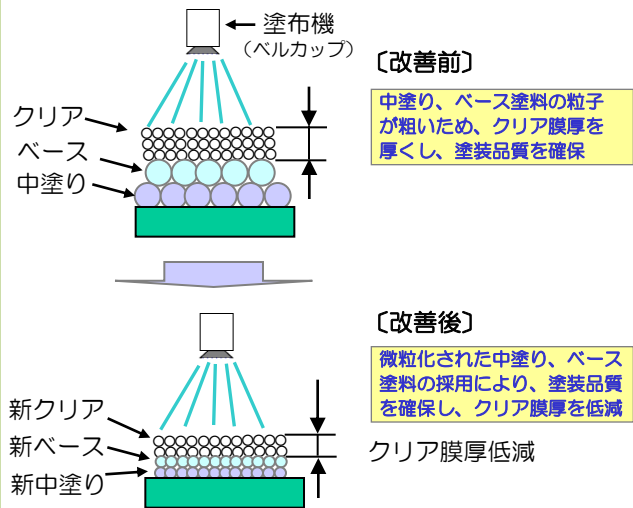
VOC排出量は大気汚染防止法の排出基準を満足しておりますが、更に低減するために塗着効率の向上や洗浄シンナーの使用量低減・回収率向上および新規塗料への切り替えを実施し2015年度目標を達成しました。

※1 ・VOC（揮発性有機化合物）とは、Volatile Organic Compoundsの略で、塗料やシンナーなどに含まれるトルエン・キシレンなどが代表的な物質



【改善事例】

ボディ塗装用 新規塗料採用による
クリア膜厚の適正化

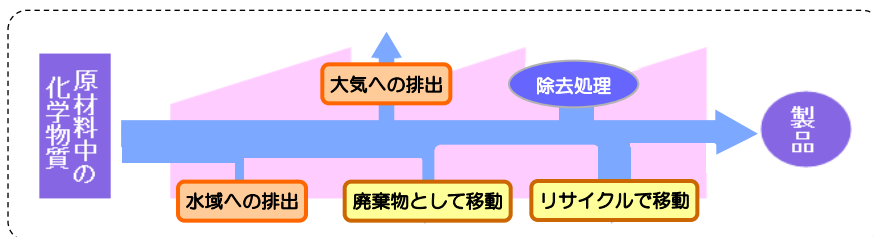


PRTTR対象物質の低減

当社はPRTTR法※2に基づき、毎年、行政への届出を実施しております。PRTTR対象物質は塗装工程で使用する塗料やシンナーに大部分が含まれているため、塗着効率の向上や洗浄シンナーの使用量低減等、VOC低減活動と連動し低減を図っています。

※2 PRTTR（環境汚染物質排出・移動登録制度）とはPollutant Release and Transfer Registerの略で、環境リスクを持つ有害な化学物質を企業・行政・住民等が協力し全体で低減する狙いから、企業がその物質の排出量や移動量を把握・行政へ届出し、行政が公表する制度

《PRTTR法の対象物質の排出・移動のイメージ図》



環境保全活動

当社は地域社会から信頼されるための「環境法令の遵守」と、クルマづくりを通じた住みよい地球と豊かな社会づくりに寄与するため、地域の特徴を活かした「自然を活用し自然と調和する工場づくり」に地域と連携し取り組んでおります。

環境違反・苦情防止活動

環境リスクに対する未然防止活動

環境違反・苦情の発生を防ぐため、環境リスクの未然防止活動等に積極的に取り組んでいます。

宮城大和工場

●『生産設備と作業』に関する環境違反の未然防止

生産活動で使用する全ての設備に対し、環境リスクの評価と作業手順書の整備を実施し、未然防止の取組みを強化しています。

- 1) 環境リスクの評価点が高い設備を「環境重要設備」と呼び、管理基準を明確に定めて運用しています。また、社内・社外の監査人による監査（1回/年）を受審し、管理のレベルアップに繋がっています。
- 2) 環境リスクの可能性のある全ての作業に関し、異常想定訓練を定期的実施しています。訓練に当たっては、天候や時間帯及び漏えい量を事前に設定し、多様な状況に対応できる様に実施しています。



社内監査



社外監査（日本自動車研究所）



異常想定訓練（地下タンクへの給油時の漏洩を想定）



東富土工場

●環境に優しい塗装ライン『新中上塗 塗装工程』への更新

- 1) 揮発性有機化合物（VOC）が少ない水性塗料を使用
- 2) 地域に迷惑を掛けないために、設備計画部署・運用部署・工場管理部署が三位一体となり、日常管理項目や緊急時の対応内容・手順を明確にし、未然防止を図っています。
 - ・環境面で重点管理すべき環境重要施設「再利用水タンク」を特定
 - ・雨水配管系への流出リスクを低減するため、再利用水タンクを囲う防液堤を設置
 - ・生産準備段階より環境重要施設の点検を実施し、管理項目の明確化と改善を推進



下塗工程（電着）排水の再利用水タンク



再利用水タンクへの防液堤設置



環境重要施設の点検

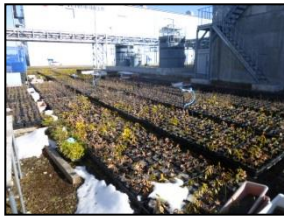
環境保全活動

地域社会・自然と調和する工場づくり

森づくり

本社・宮城大衡工場

「コンパクト・フレキシブル・ハーモニー」をコンセプトに地域社会・自然との共生を図りながらクルマづくりを行っております。



育成中のどんぐり苗木



植樹の様子



第3回植樹会参加者

宮城大衡工場の場所は元々、自然豊かな森でした。その森に少しでも戻すため、従業員及びその家族が拾い集めたどんぐりを工場内で大事に育て、植樹会を毎年開催しています。3回目の今回は、地域住民の皆様と一緒に大きく成長した苗木1,600本（累計3,470本）を植樹しました。私たちは10年後、20年後、様々な種類の樹木に囲まれた自然豊かな工場づくりを目指し取組んでいます。

岩手工場

「人と環境にやさしいクルマづくり」を合言葉に、緑豊かな岩手の地で地球や自然との共生を図りながら生産活動を行っています。

植樹会参加者
(ブロック毎)

植樹会の様子

金ケ崎保育園の
子供たちも参加

植樹後の記念撮影

岩手工場は住所が「森山」という名前のように、工業団地になる前は森でした。その森を少しでも元の状態に戻すため、従業員及びその家族が拾い集めたどんぐりを育て、植樹会を毎年開催しています。過去7回の植樹会で、どんぐりを主体に約20,000本を植樹しました。今回は工場近隣の保育園の子供たちが育てた苗木70本を工場内に植樹していただきました。

環境保全活動

自然を活用した工場づくり

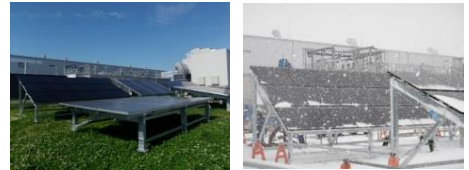
自然エネルギー利用

本社・宮城大衡工場

● 太陽光利用

当社は宮城県大衡村の第二仙台北部中核工業団地内におけるF-グリッド※1事業の一環として、本社・宮城大衡工場の建屋屋上へ太陽光発電を設置し、再生可能エネルギーを積極的に利用しています。

太陽光パネル設置に当たっては、最適な発電効率を目指し実証実験を行いました。



最適化に向けた実証実験状況

※1 F-グリッドとは

自家発電設備から作ったエネルギー（電力・熱）と、電力会社より購入した電力の制御・最適化を図りながら、工業団地内へ効率的にエネルギー供給を行う。非常時には自家発電設備で発電した電力を電力会社が購入し、電力会社の配電線から防災拠点となる大衡村役場等に電力を供給する。

FはFactoryを、グリッドはエネルギー網を表す。



本社・宮城大衡工場 建屋屋上の太陽光パネル（最大出力：350kW）

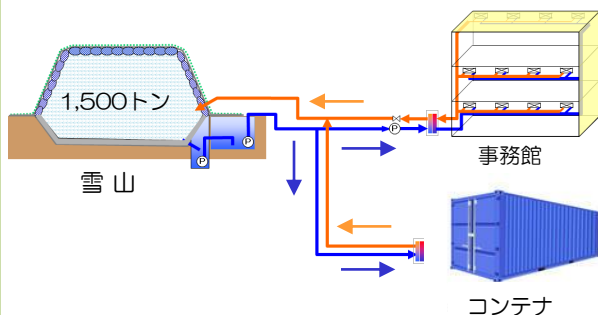
岩手工場

● 雪冷熱利用

夏場に雪解け水（冷水）を事務館等の冷房に利用しています。

また、新たに貨物用コンテナを利用した暑熱対策飲料の冷蔵実験等、更なる雪冷熱の有効利用の実現に向けた取組みを推進しています。

事務館・組立冷房用雪山

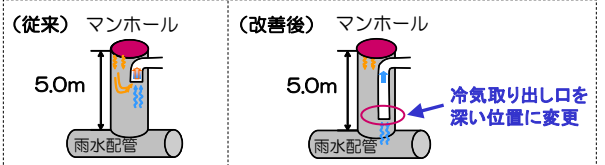
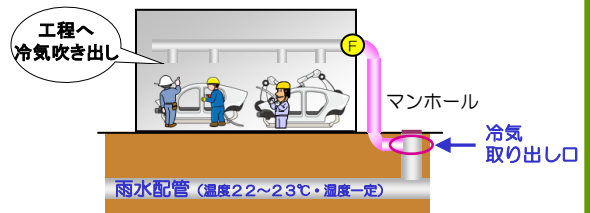


凡例 雪解け水（約5℃）：→
戻り水（約14℃）：←

● 地中熱利用

外気温が変動しても温度・湿度が一定である地中熱に着眼し、地中にある既存の雨水配管を使った冷房を継続的に実施しています。また、更に冷房効果をあげるため、配管内の冷気をより深い位置から取り出すよう改善しています。

地中熱を工程の冷房に利用



環境保全活動

地域と連携した美化活動

宮城地区

工場周辺の清掃活動

地域貢献活動の一環として、従業員による工場周辺の歩道等の清掃活動を定期的を実施しています。



本社・宮城大衡工場周辺の清掃



宮城大和工場周辺及び調整池の清掃

岩手地区

地域美化活動

工場周辺道路の清掃や草刈を定期的実施しています。金ケ崎町主催の「金ケ崎町クリーン作戦」「ふるさと守りたい清掃活動」の奉仕活動、その他地域のイベントにも積極的に参加しています。



「ふるさと守りたい清掃活動」参加者



工場外周の清掃



東富士地区

公共道路での交通マナー挨拶運動

管理職が輪番制で毎週水曜日、通勤道路上にて「ハッピーハート活動^{※1}」を実施しています。

※1 明るく・楽しく・元気の工場を目指した活動

地域貢献美化活動

従業員が毎月、会社周辺道路（岩波駅前）のクリーンキャンペーン活動を実施しています。



交通マナー挨拶活動



美化活動



※2 CX会総合センター支部 清掃活動

「清潔なところにポイ捨なし」の思いで、CX会メンバーによる会社周辺道路の清掃活動を就業前の時間を利用し、定期的実施しています。

※2 CX会とは：上級指導職1級で組織される職制会



CX会メンバーによる清掃活動



地域社会とのコミュニケーション活動

当社は良き企業市民として、社会と調和した成長を目指し、地域の皆様とコミュニケーションを図りながら、環境保全活動を推進しております。

コミュニケーション活動

宮城地区

大和・大衡エコフォーラム（仙台北部工業団地各企業）

仙台北部工業団地の各企業との情報交換を目的に「大和・大衡エコフォーラム」を年4回開催しています。2015年度は保健所より法改正情報の展開や、仕入先の皆様よりニッカド電池の共同回収が可能な企業をご提案いただきました。



各企業との情報交換



保健所からの法改正情報展開



仕入先様からの共同回収提案

岩手地区

環境コミュニケーション報告会

地域住民の皆様との情報共有や共通認識を主な目的に、近隣住民、県内企業、行政の皆様をお招きし、報告会を開催しました（平日、休日の2回開催）。当日は環境に関する取組みを説明し、意見交換を行いました。



「会社夏まつり」でも取組みを紹介



雪冷熱利用のコンテナ冷蔵庫を体験



意見交換会

東富士地区

狩野川水系水質保全協議会

東富士総合センターと東富士工場からの排水は、支流の久保川、佐野川、狩野川を經由し駿河湾に流れ込みます。きれいな川を維持するための地域保全活動を、行政や近隣企業の皆様と共にを行っています。



あまご放流



河川清掃



子会社の取組み

第5次環境取組みプランでは、当社と連結子会社各社が環境に関する取組み項目と目標を共有し一体となって活動を推進しました。2016年度からスタートした「第6次環境取組みプラン」においても、同様に活動を推進しております。

● (株)EJサービスの取組み

当社は関東興産(株)と(株)ケイ・イー・プロテックの2社が統合し、2015年7月1日に誕生いたしました。トヨタ自動車東日本グループの一員として、建築/設備工事、警備、清掃、厚生施設管理、産業廃棄物収集・運搬に加え、トヨタホームの商品設計から製造・施工までを手がけております。

『よりよい環境&よりよいサービスを誠実・迅速に』を行動の原点とし、お客様のお役に立ち、喜んでいただける企業を目指し取組んでおります。

環境の取組み

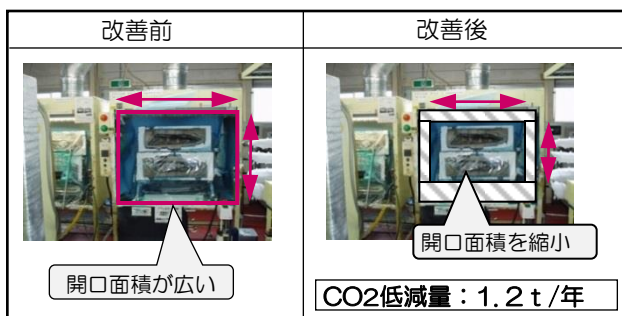
経営の基本方針に基づき、環境への取組みを推進するとともに、国際規格ISO14001に対応した環境マネジメントシステムを構築し、環境に配慮したサービスや提案をお客様へ提供しております。「ISO14001」の認証は、1999年3月に山梨事業所、2003年5月に岩手事業所、同年6月に東富士事業所でそれぞれ取得しております。

● 主な活動内容

● 省エネルギー活動 (岩手事業所)

自動車の部品塗装において、ブースの開口面積を該当法令や品質要件を満足した上で縮小するとともに、排気ファンの能力を見直し、電力使用量を低減しています。

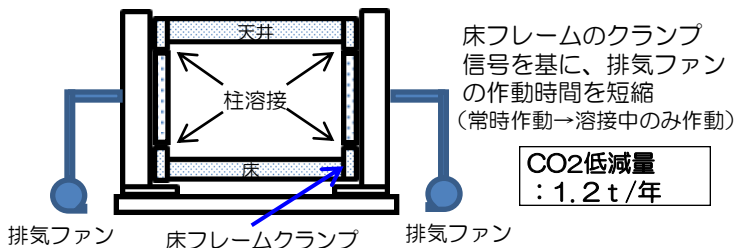
【改善事例】塗装ブース排気ファンの電力量低減



● 省エネルギー活動 (山梨事業所)

住宅の溶接作業時に作動する排気ファンの運転条件を見直し、電力使用量を低減しています。

【改善事例】溶接作業時の排気ファン電力量低減



● 産業廃棄物低減活動 (東富士事業所)

トヨタ自動車東日本(総合センター)の厨房にある食用油と水のグリストラップ(油水分離阻集器)を清掃する際、浮遊する油脂のみを回収・廃却し、残った水を排水処理施設で浄化後、放流することにより廃棄物を大幅に低減しています。

【改善事例】厨房設備の清掃方法改善



お客様との関わり

品質保証

当社は「お客様第一」「品質第一」のクルマづくりを実践し、お客様の期待に応える「世界一の魅力あるコンパクト車」をお届けすることを目指しております。そのため、クルマづくりに携わる一人ひとりが、品質最優先の意識を持ち改善に努め、全社で連携してお客様の安心と安全、満足度の向上に努めております。

「お客様第一」の風土づくり

全社員への「お客様第一」「品質第一」の意識浸透の仕組みとして、品質教育を実施しています。また、トヨタ自動車(株)と連携した品質講話会、品質事例展示会等を定期的開催し、品質に対する問題意識を共有しながら各業務に取り組んでいます。



品質教育の日



品質講話会



品質事例展示会

2015年度は「心の研鑽会」(部長がリードし模範組長を作り拡大する活動)を通じた部長・課長・工長・組長との日々のコミュニケーションや、毎月11日に実施している「品質教育の日」に全工程員が参加し、品質知識や意識の向上を図っています。また、実物を用いた確認により、工程員の意見を引き出し、改善も行っています。これらの活動を通じ、高品質なクルマづくりに繋がっています。

【ボディ傷について勉強した工程員の声】
自分の不注意でボディ傷を発生させ、お客様や後工程に迷惑を掛けないようにします。今日は現地現物で職制から説明を受けたので良く理解できました。



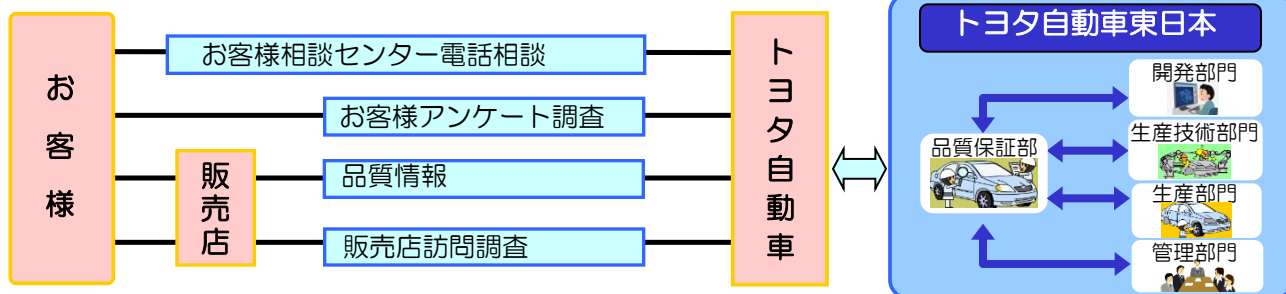
2015年度トヨタグループ
品質向上活動表彰

- ・品質優秀賞 (岩手工場)
- ・品質優良賞 (東富士工場)
- ・ユニット品質優秀賞 (宮城大和工場)
- ・改善活動表彰 (宮城大衡工場)

全社を挙げた品質向上活動の推進により、2015年度トヨタグループ品質向上活動表彰にて、当社は品質が良い工場に授与される品質優秀賞を含めた4つの賞を全工場で受賞することができました。

お客様の声の収集と素早い対応

トヨタ自動車(株)に入ったお客様からのご相談やご意見、貴重な品質情報は、トヨタ自動車と連携を図り素早く改良・改善を実施し、その結果をお客様にフィードバックしています。また、当社で生産している北米向け輸出車は、お客様の生の声を聞き、現地現物での調査・確認と速やかな対応ができる様、当社従業員が米国トヨタ自動車販売(株)に駐在し、現地スタッフとともに品質向上活動を展開しています。



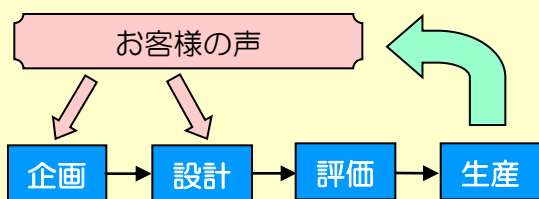
お客様との関わり

人に優しい製品づくり

福祉車両、福祉機器の開発

- 当社は「すべてのお客様に快適な移動の自由を」「お客様の幸せな暮らしのために少しでもお役に立つこと」これを合言葉に、電動車いすや福祉車両などを開発しております。
- 福祉施設や展示会にてユーザーの皆様のご意見をお伺いし、製品開発に活かす活動を進めております。

お客様の声を製品開発へ反映



当社で生産している福祉車両・機器

	使用目的	仕様
福祉車両・機器	助手席への移乗補助	回転シート／昇降回転シート
	後席への移乗補助	回転シート／昇降回転シート
	車いすのまま乗降	リヤスロープ
	自分で運転	移乗補助装置／車いす収納装置
	歩行補助	4WD電動車いす

◆販売中商品を展示イベントに出展



【東京モーターショー2015】
シエンタ車いす仕様車（スロープタイプ）

◆販売前商品を参考出展



【国際福祉機器展2015】
シエンタに搭載した車いすドライバー向け移乗補助装置
「ウェルライド」を参考出展

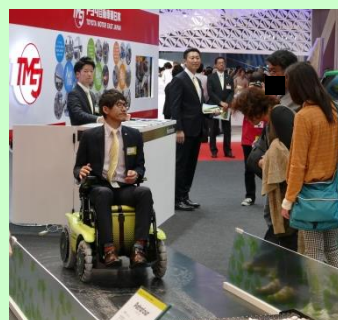


【国際福祉機器展2015】
スピード助手席リフトアップシート車

Patrafour®



4WD電動車いす
「Patrafour」



【東京モーターショー2015】
4WD電動車いす「Patrafour」

社会貢献活動

地域社会とのコミュニケーションや地域における環境保全活動を通じて、地域社会から信頼される企業を目指し取り組んでおります。

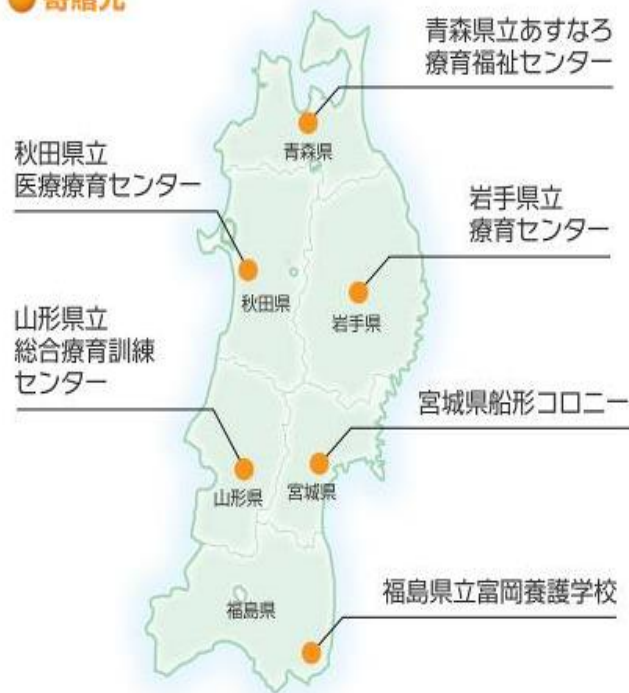
シエンタ ウェルキャブ 車いす仕様車の寄贈

東北に根ざす企業として地域に貢献することを目的に、シエンタ ウェルキャブを東北各県に1台ずつ合計6台を寄贈し、福祉施設やリハビリテーションセンターでの送迎車としてご利用いただいています。当社では実際にご利用いただいているお客様の声をお聞きし、今後の車両開発にフィードバックすることで、より魅力あるコンパクト車の開発へと繋げていきたいと考えています。



秋田県立医療療育センターの皆様

● 寄贈先



● 寄贈の様子



’15.12.9 青森県庁



’15.11.30 岩手県庁



’15.10.28 宮城県庁



’15.11.30 秋田県立医療療育センター



’15.12.2 山形県庁



’15.11.17 福島県庁

社会との関わり

工場見学の受入

小学5年生の社会科見学の一環として、工場見学を積極的に受け入れています。本社・宮城大衡岩手、東富士の各工場にて約38,000人にご来工いただきました。

[詳しくはこちら](#)



本社・宮城大衡工場



岩手工場



東富士工場

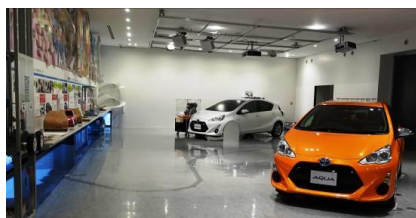
結[YUI]ギャラリー

地域の皆様と当社を結びつける空間として、本社・宮城大衡工場と岩手工場の2カ所にあるギャラリーでは、当社のクルマづくりにおける開発の取組みやハイブリッド車の仕組みなど目で見て触れて体感していただける展示内容となっています。昨年度は本社・宮城大衡工場では約26,000人、岩手工場では約13,000人 合計約39,000人の皆様にご覧いただきました。

[詳しくはこちら](#)



本社・宮城大衡 結[YUI]ギャラリー



岩手 結[YUI]ギャラリー

地域のイベントに協賛や出展

第39回「松島ハーフマラソン」に当社も協賛し、車両3台を提供しました。また、大会には当社従業員も約20名出場しました。



松島ハーフマラソン（時計車としてシエンタを提供）



東京モーターショー2015
でも時計車は大活躍

東北こども博、きたかみかねがさきテクノメッセ等、各地で開催される様々なイベントへの出展・車両提供等の協力を通して地域活性化のサポートを行っています。



東北こども博
（電動車いすパトフォー・シエンタ展示試乗）



きたかみかねがさきテクノメッセ
（クレイモデル・シエンタ展示）



いしのまき復興マラソン
（支援車両提供）

復興支援ボランティア活動

トヨタグループでは2011年6月から岩手県気仙地区で復興支援ボランティア活動を継続しています。当社もトヨタグループの一員として、また地元企業として従業員より有志を募り、これまでに延べ305名が参加しました。



大船渡マラソン（大船渡市）



大船渡夏まつり（大船渡市）



りんご収穫（陸前高田市）

当社独自の活動として、宮城県南三陸町などで、地域支援活動としてニーズに合わせて幅広く実施し、これまでに217名が参加しました。



ワカメ収穫（南三陸町）



蒲生海岸清掃（仙台市）



車いす清掃（大衡村）

宮城県岩沼市 千年希望の丘植樹

千年希望の丘で行われている植樹祭に2014年より参加しています。2015年は従業員22名が愛知県の子どもたちが育てた苗木、60本を含む1,000本を植樹しました。



植樹祭 会場門



愛知県の子どもたちが育てた苗木



植樹祭の様子

社会との関わり

トヨタ・マスター・プレイヤーズ、ウィーンコンサートへ高校生を招待

トヨタ自動車（株）は復興支援の一環として、トヨタ・マスター・プレイヤーズ、ウィーンコンサート仙台公演、盛岡公演を開催しました。当社もこれに協力し、一流の演奏に触れてもらい、心の復興の一助になればとの思いで高校生（吹奏楽部員）645名を招待しました。また、沿岸地区の公共交通機関が復旧していない地域の学校には、バスによる送迎を実施しました。さらに、岩手県住田町、宮城県南三陸町で開催された演奏者によるふれあいコンサート（出張コンサート）には、演奏者の移動用車両を提供しました。



公演の様子



招待校代表との記念撮影



ふれあいコンサート

関東・東北豪雨復旧支援活動

「平成27年9月 関東・東北豪雨」で大きな被害を受けた大衡村・大和町において、当社から161名が参加し、泥の掃出しや浸水した家具の運搬などを行いました。また、同じく被害を受けた大崎市へは、要望により車両3台を提供しました。



床板を剥がしてから泥を掃き出し



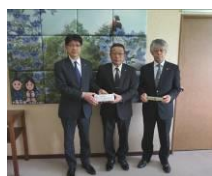
床上浸水の被害に遭った部屋の清掃



浸水被害により使用できなくなった家具の運搬

新入学児童への交通安全啓蒙活動

当社が拠点を置く各市町村の新入学児童約7,400人に交通安全標識や交通ルールをプリントした定規を贈呈させていただきました。



大衡村



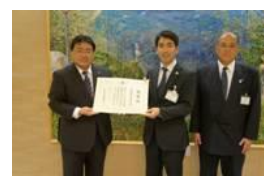
大和町



金ヶ崎町



裾野市



横須賀市

社会との関わり

交通安全への取組み

自動車の製造に携わる企業として地域の皆様や行政の方々と連携を図りながら、社内外において積極的に交通事故防止活動を推進しております。

交通安全講話会の実施

各地区の警察署交通課長を講師にお招きして、地域の交通事情を踏まえた注意点を社内各拠点の従業員へ講話いただき、安全運転の意識付けを図っています。



本社・宮城大衡工場



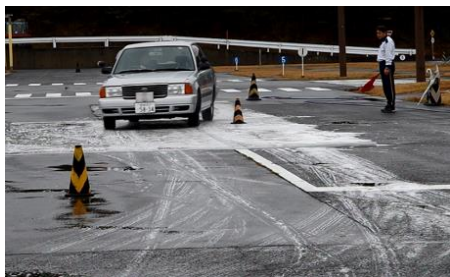
宮城大和工場



東富士総合センター

運転講習会の実施

当社の新入社員や東北への赴任者に対し、雪道の運転教育を実施しています。また事故を起こしやすい29才以下の従業員に対し、呼称運転や安全確認の注意点など運転教育を実施しています。



本社・宮城大衡工場、大和工場



本社・宮城大衡工場

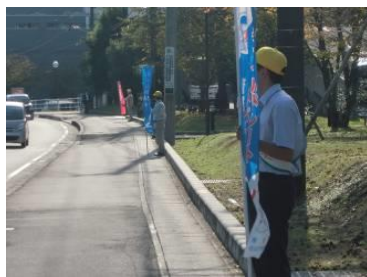


従業員による交通安全の呼びかけ

従業員の出退勤時、工場周辺にて通行車両や歩行者に対し、また小学生の下校時間に合わせて交通安全の呼びかけを定期的実施し、交通事故防止を図っています。



宮城大和工場



東富士総合センター



東富士工場

従業員との関わり

安全

「全員参加で安全文化の構築と取組みの質向上」をスローガンに、全社を挙げて安全活動に取り組んでおります。

安全の取組み

取組みの考え方

「安全が良くなれば品質、稼働も良くなる」との考えのもと、災害ゼロ実現のため、下記取組事項を重点に活動しています。

- (1) 「止める・呼ぶ・待つ」の浸透活動
- (2) 全員参加で徹底した5S※1活動
- (3) 一人ひとりの安全感性向上

※1 5Sとは
整理・整頓・清掃・
清潔・躰をいう



安全文化の構築を誓い合う狙いで毎年1月13日を「安全を誓う日」として活動

「止める・呼ぶ・待つ」の浸透活動

異常発生時は「止める」を実践し、職制と工程員のコミュニケーションで異常の真因対策を実施する活動が浸透するよう、トップ自ら現地現物で確認しています。



「止める・呼ぶ・待つ」の確認会

全員参加で徹底した5S活動

「5Sは仕事の基本」との考えのもと、全員参加で職場の5S活動に取り組んでいます。



職場の5S活動

一人ひとりの安全感性向上

ヒヤリハットや危険予知訓練（一人KY、ビデオKYT）、擬似体験など、様々な活動を通して安全感性の向上に取り組んでいます。



安全道場で擬似体験教育

法改正への対応（コンプライアンス）

化学物質リスクアセスメントの義務化に伴い、対象者へ教育を実施し、法令遵守を徹底しています。



化学物質リスクアセスメントの教育

従業員との関わり

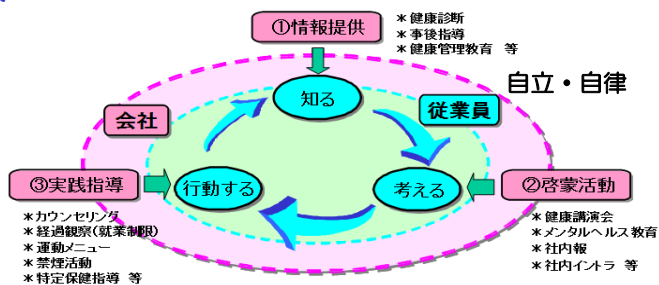
健康

心と体の健康づくりの取組み

● 健康管理活動

従業員一人ひとりが健康づくりを実践していけるよう、心身の健康維持・増進につながる施策を推進しております。

● 重点取組み事項



体の健康（生活習慣病予防）

■ BMI 値※1低減に向けた取組み

- (1) 運動習慣づくりの実施
- (2) 職場スポーツイベントの実施
- (3) 社員食堂でヘルシーランチの提供

■ 喫煙率低減に向けた取組み

- (1) 就業時間内の禁煙
- (2) 禁煙教室の実施
- (3) ニコチンパッチ処方による禁煙促進

心の健康（メンタルヘルス対応）

■ 発症予防・早期発見に関する取組み

- (1) ストレスチェックに基づく職場診断と対策の実施
- (2) 管理監督者のためのメンタルヘルス研修会の実施
- (3) カウンセリング制度の充実

※1 〔体格指数〕 体重÷（身長×身長）

人材育成

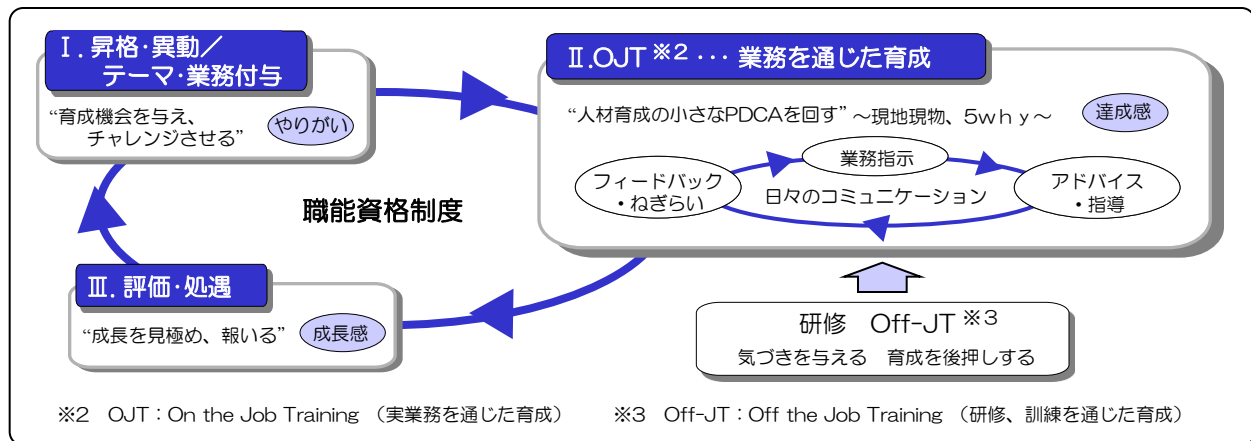
私達は「東北を基盤に 世界一の競争力を持つ 魅力あるコンパクト車をつくる」ことを目指すために、「人が育つ・人を育てる」取組みを進めております。

人材育成の仕組み

人材育成の基本的な考え方は職能資格制度を中心に、「テーマ・業務付与」⇒「OJT」⇒「評価・処遇」⇒「昇格・異動」の人事サイクルをしっかりと回すことです。これを補完する仕組みとして、気づきを与え、育成を後押しする各種研修制度（Off-JT）があります。職場での業務を通じ、OJTを基本に上司が部下を一貫性を持って継続的に育成しています。

＜目指す人材像＞

- ・チャレンジ精神に溢れ、自ら育つ、人を育てる人材
- ・現地現物を実践し、知恵を絞りながら改善し続ける人材
- ・チームワークを大事にする人材



※2 OJT : On the Job Training (実業務を通じた育成)

※3 Off-JT : Off the Job Training (研修、訓練を通じた育成)

従業員との関わり

人材育成

トヨタ東日本学園

トヨタ東日本学園では、将来ものづくり現場の中核として活躍できる人材の育成に取り組んでいます。当社の社員だけではなく、東北のものづくり企業の皆様にも受講いただき、「人づくりを通じた東北のものづくり基盤の強化」に取り組んでいます。 [③詳しくはこちら](#)



トヨタ東日本学園 外観

現在は「若さ・元気」を前面に日々取り組んでいます。今後は、学園で学んだ「技能教育」をもとに、職場先輩の指導を受け、更なる自身の成長に繋げていきます。
(学園卒業生)



実習の様子



◎受講生状況

(人)

		2014年	2015年	2016年
長期コース	当社訓練生	15	15	15
	企業訓練生	4	4	5
中期コース		6	6	随時受付中
短期コース		82	102	

働き方の多様性

多様な人材が生き生きと働ける環境を作り出すことを目指し、当社では「育児・介護支援」「高年齢者雇用」「障がい者雇用」などに取り組んでおります。

育児・介護支援

育児や介護に対する諸制度と、働きやすさを追求した勤務制度の充実に継続的に取り組んでいます。

◎主な育児支援制度

◎主な介護支援制度

	▼出産	▼小学校入学	▼小学校卒業
育児休職	通算3年（非ライン職場：通算2年）		
短時間勤務	4・6・7Hから選択可能		非ライン 職場限定
所定時間外労働免除			
時間外労働制限			24H/月 150H/年
子の看護に関する休暇	子1人：年5日、子2人以上：年10日		

介護休職	家族1人につき1年
短時間勤務	家族1人につき1年 4・6・7Hで選択可能 （非ライン 職場限定）
時間外労働制限	24H/月、150H/年まで
介護休暇	家族1人：年5日 家族2人以上：年10日

高年齢者雇用（定年再雇用制度）

定年退職される方について、会社で培った高い技能・技術を活かしていただくことを目的に、定年再雇用制度を導入しており、多くの方が現役として活躍しています。

障がい者雇用

企業の社会的責任という観点から、障がい者雇用促進に積極的な活動を行っており、雇用率は2.22%と法定雇用率（2%）を達成しています。（2016年3月末）

労使関係

労使関係は、労使相互信頼・相互責任を基本的な考え方としています。お互いを理解・信頼し、協力し合うことで、初めて会社の発展と従業員の自己実現が達成できるものと考え、定期的話し合う場を設けて活発な意見交換を行っております。

従業員との関わり

スポーツ活動支援

従業員が一丸となった応援を通じた職場の一体感醸成やコミュニケーション向上を目的に、3つのスポーツクラブ活動に力を入れております。また、職場対抗駅伝大会を毎年実施しております。

■ スポーツクラブ活動

[詳しくはこちら](#)

● セーリングチーム

1970年に発足し、1988年のソウルオリンピック出場を初めとして、2012年ロンドン大会まで6大会連続出場しており、2016年リオデジャネイロ大会には、49er級とRSX級の2種目での出場が内定しています。

なお、49er級の高橋、牧野両選手は2大会連続、RSX級の富澤選手は3大会連続のオリンピック出場となります。



49er級：高橋選手、牧野選手



RSX級：富澤選手

● ハンドボール部

1996年に創部、2012年度より国内最高峰の日本リーグに参戦し、日本一を目指し活動しています。日本リーグ参戦以降、確実に力をつけ、2015年度は日本リーグレギュラーシーズンで3位の成績を収め、初のプレーオフ進出を果たしました。

また、川端選手がベストディフェンダー賞を獲得するなど、昨年度に続き個人成績でも着実に一人ひとりが成長しています。



日本リーグで3位でプレー初出場を果たしたハンドボール部



ベストディフェンダー賞を受賞した川端選手

● 硬式野球部

2012年に創部、「仕事も野球も100%」をスローガンに都市対抗野球大会本選出場を目標に活動し、2015年度は東北二次予選まで勝ち進みました。続く日本選手権では、昨年に続き東北最終予選準決勝まで勝ち進むことができました。今後もそれぞれの本戦出場を目指し、チーム一丸となり頑張っていきます。



岩手県を代表するチームとして
更なる活躍が期待される硬式野球部

■ 社内駅伝大会

従業員の一体感やチームワークを醸成し、職場のコミュニケーションを活性化させる施策として、毎年社内駅伝大会を実施しています。開催4年目の2015年は、一般の部・シニアの部に加え、「楽しく健康的に走る」を目的に「ふれあいの部」「仮装の部」の2種目を新設し、従業員、家族合わせて約3,300名の方が参加しました。



各地区の予選を勝ち抜いたチームによる決勝大会
(第4回大会：本社・宮城大衛工場にて)

【読者の皆様へ】

ご意見、ご要望をお聞かせいただきたく、こちらのメールアドレスに宜しく
お願い致します。

ci_ankan@toyota-ej.co.jp

発行部署 トヨタ自動車東日本株式会社 安全・環境室
〒981-3609 宮城県黒川郡大衡村中央平1番地

お問い合わせ先 安全・環境室 環境グループ
TEL 022-765-6172
FAX 022-765-6308

発行 2016年6月



当社の環境ロゴマーク